

# 「家がいいね」 第82号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2011. 3. 3

## 生活を支える医療の形

毎日の生活で医療が必須と考える人は、多くはないと思います。

しかし人生も後半になり、ようやくゴールのイメージと共に医療の世界が見えるようになるでしょう。命や身体機能の危機に瀕した時



「助けて!」の求めに応じてリカバリーの医療がある。この**急性期医療**あるいは**救急医療**は、医者自身が徹底して教え込まれ集中してきた世界です。一方で、不幸にも障害が残り、家にも戻れない時には**療養の医療**がある。しかし社会的入院の弊害のため縮小され介護施設も少なく、医者の熱意より介護スタッフの粘りで維持される世界です。

**健康寿命が延びても、その結果、ピンコロリ**とはいかなのが世の習い。これからは軽い障害や何とか治療可能な癌をかかえ、生活の場と病院をきつ戻りつの**医療の期間が増えることになる**。その間を支えるのが**在宅医療**なのだが、病院と違い住民の身近にまだ見えにくい所にある。高齢でも自宅ですすむため、知ってほしい世界です。

## 病院完結型か、地域医療の復権か

病院の崩壊が伊勢近辺でも取沙汰される。日赤と伊勢慶友は自らの方向付けを進めている。取り残されて混乱にあるのが市立伊勢総合病院であり、何度も再建の検討委員会が開かれても前進しない。皆、他人の責任として語る。「では、「こうしよう!」と分かちあうような話が進まない。閉鎖のシナリオまでもチラつく。傍聴して、おかしいと思った。

**医療は病院の生き残りのために成されるわけではない。この地域で、安心して生活するための拠り所になるのが医療であり、まず自分の病院ありきのバラバラな利害で市民が左右されるのは本末転倒だ。関係する医療・福祉・行政、そして何よりも市民自身が、地域医療の全体像を確認して、自ら当事者として登場しなければと思う。病院の再建が希望を持って語られる地域では、医療者と住民の熱い直接対話から物事が始まるというのに。**

## 公的病院の生きる道

千葉県立東金病院は内科医が院長を含め2名までの危機を経験した。しかし研修医が行きたい病院として、「地域が医師を守り育てる」病院として再生している。その経緯の詳細は岩波書店のこの本を御覧になって下さい。



## 地域（医療）再生への処方箋

三重県でも地域医療を再生しようとする好例がある。三年前から四日市市では「**安心の地域医療検討委員会**」を保健所が間をまとめ、医師会・地域包括支援センター・市立病院や在宅スタッフがチームとなり、在宅医療の推進を後押ししようとしている。在宅医療が地域医療の安定につながると、市立病院も緩和ケアの支援や入院受け入れに努めると表明されました。



## エンディングノートを学ぶ会

住民自身が、最期まで自宅での生活を選ぶほうとするなら、それは自然に叶うことではありません。一人の頭で考えず、互いに勉強しながら、対応を考える道を選びましょう。エンドには「終わり」だけではない、次に繋ぐ「先端」そして「目的」の意味もあります。3月16日（水）19時〜4月からは定例化、第2水曜夜19時〜場所…クリニック隣 縁（えにし）の家

## 新しい情報のホームページ開きました

## がん患者とサポーターのつどい

3月13日（日）12時半〜 津アスト 無料  
小児科医・細谷亮太さんトーク 伊勢  
3月19日（土）16時半 進富座 有料申込



自宅での人生を  
最期まで支援します

〒516-0805  
三重県伊勢市御園町高向 927  
電話 0596-20-8104  
ファクス 0596-20-8105  
メール [homecare@kr.tcp-ip.or.jp](mailto:homecare@kr.tcp-ip.or.jp)  
ホームページ <http://isezaitaku.com>